

京都府・福井県・滋賀県・兵庫県における「日本遺産(Japan Heritage)」

ストーリーのタイトル	自治体	内容
<p>日本茶 800 年の歴史散歩 【2015 年 4 月認定】</p>	<p>◎京都府 (宇治市・城陽市・八幡市・京田辺市・木津川市・久御山町・井手町・宇治田原町・笠置町・和束町・精華町・南山城村)</p>	<p>お茶が中国から日本に伝えられて以降、京都・南山城は、お茶の生産技術を向上させ、茶の湯に使用される「抹茶」、今日広く飲まれている「煎茶」、高級茶として世界的に広く知られる「玉露」を生み出した。 この地域は、約 800 年間にわたり最高級の多種多様なお茶を作り続け、日本の特徴的文化である茶道など、我が国の喫茶文化の展開を生産、製茶面からリードし、発展をとげてきた歴史と、その発展段階ごとの景観を残しつつ今に伝える独特で美しい茶畑、茶問屋、茶まつりなどの代表例が優良な状態で揃って残っている唯一の場所である。</p>
<p>鎮守府 横須賀・呉・佐世保・舞鶴～日本近代化の躍動を体感できるまち～ 【2016 年 4 月認定】</p>	<p>◎京都府 (舞鶴市) ※横須賀市、呉市、佐世保市との共同認定</p>	<p>明治期の日本は、近代国家として西欧列強に渡り合うための海防力を備えることが急務であった。このため、国家プロジェクトにより天然の良港を四つ選び軍港を築いた。静かな農漁村に人と先端技術を集積し、海軍諸機関と共に水道、鉄道などのインフラが急速に整備され、日本の近代化を推し進めた四つの軍港都市が誕生した。百年を超えた今もなお現役で稼働する施設も多く、躍動した往時の姿を残す旧軍港四市は、どこか懐かしくも逞しく、今も訪れる人々を惹きつけてやまない。</p>
<p>300 年を紡ぐ絹が織り成す丹後ちりめん回廊 【2017 年 4 月認定】</p>	<p>◎京都府 (宮津市・京丹後市・与謝野町・伊根町)</p>	<p>京都府北部の丹後を訪れると、どこからか聞こえてくるガチャガチャという機織りの音。 丹後は古くから織物の里であり、江戸時代に発祥した絹織物「丹後ちりめん」は、しなやかで染色性に優れ、友禅染などの着物の代表的な生地として、我が国の和装文化を支えてきた。 この地は今も着物の生地の約 6 割を生産する国内最大の絹織物産地であり、織物の営みが育んだ、住居と機場が一体となった機屋や商家、三角屋根の織物工場の町並みと、民謡宮津節で歌い継がれた天橋立などの象徴的な風景を巡れば、約 300 年に渡る織物の歴史と文化を体感できる。</p>
<p>海と都をつなぐ若狭の往来文化遺産群～御食国(みけつくに)若狭と鯖街道～ 【2015 年 4 月認定】</p>	<p>◎福井県 (小浜市・若狭町)</p>	<p>若狭は、古代から「御食国」として塩や海産物など豊富な食材を都に運び、都の食文化を支えてきた地である。また、大陸からつながる海の道と都へとつながる陸の道が結節する最大の拠点となった地であり、古代から続く往来の歴史の中で、街道沿いには港、城下町、宿場町が栄え、また往来によりもたらされた祭礼、芸能、仏教文化が街道沿いから農漁村にまで広く伝播し、独自の発展を遂げた。 近年「鯖街道」と呼ばれるこの街道群沿いには、往時の賑わいを伝える町並みとともに、豊かな自然や、受け継がれてきた食や祭礼など様々な文化が今も息づいている。</p>

<p>荒波を越えた男たちの夢が紡いだ異空間～北前船寄港地・船主集落～</p> <p>【2017年4月認定】</p>	<p>◎福井県 (敦賀市・南越前町) ※酒田市、函館市、松前町、鱒ヶ沢町、深浦町、秋田市、新潟市、長岡市、加賀市との共同認定</p>	<p>日本海沿岸には、山を風景の一部に取り込む港町が点々とみられます。そこには、港に通じる小路が随所に走り、通りには広大な商家や豪壮な船主屋敷が建っています。また、社寺には奉納された船の絵馬や模型が残り、京など遠方に起源がある祭礼がおこなわれ、節回しの似た民謡が唄われています。これらの港町は、荒波を越え、動く総合商社として巨万の富を生み、各地に繁栄をもたらした北前船の寄港地・船主集落で、時を重ねて彩られた異空間として今も人々を惹きつけてやみません。</p>
<p>琵琶湖とその水辺景観－祈りと暮らしの水遺産</p> <p>【2015年4月認定】</p>	<p>◎滋賀県 (大津市・彦根市・近江八幡市・高島市・東近江市・米原市、長浜市)</p>	<p>古来より穢れを除き、病を癒すものとして祀られてきた水。仏教の普及とともに東方にあつては、瑠璃色に輝く「水の浄土」の教主・薬師如来が広く信仰されてきた。琵琶湖では、「水の浄土」を臨んで多くの寺社が建立され、今日も多くの人々を惹きつけている。また、くらしには、山から水を引いた古式水道や湧き水を使いながら汚さないルールが伝わっている。湖辺の集落や湖中の島では、米と魚を活用した鮎ずしなどの独自の食文化やエリなどの漁法が育まれた。多くの生き物を育む水郷や水辺の景観は、芸術や庭園に取り上げられてきたが、近年では、水と人の営みが調和した文化的景観として、多くの現代人をひきつけている。ここには、日本人の高度な「水の文化」の歴史が集積されている。</p>
<p>忍びの里 伊賀・甲賀－リアル忍者を求めて－</p> <p>【2017年4月認定】</p>	<p>◎滋賀県 (甲賀市) ※伊賀市との共同認定</p>	<p>忍者は今やテレビやアニメを通じて海外にまで広く知れ渡り、奇抜なアクションで人々を魅了している。忍者の名は広く知られていても、真の姿を知る人は少ない。伊賀・甲賀は忍者の発祥地として知られ、その代表格とされてきた。複雑な地形を利用して数多くの城館を築き、互いに連携し自らの地を治め、地域の平和を守り抜いた集団であり、伊賀・甲賀流忍術は、豊かな宗教文化や多彩な生活の中から育まれた。忍びの里に残る数々の足跡を訪ねれば、リアルな忍者の姿が浮かび上がる。伊賀・甲賀、そこには、戦乱の時代を駆け抜けた忍者の伝統が今も息づいている。</p>
<p>きっと恋する六古窯－日本生まれ日本育ちのやきもの産地－</p> <p>【2017年4月認定】</p>	<p>◎滋賀県 (甲賀市) ◎福井県 (越前町) 兵庫県 (篠山市) ※備前市・瀬戸市・常滑市・との共同認定</p>	<p>瀬戸、越前、常滑、信楽、丹波、備前のやきものは「日本六古窯」と呼ばれ、縄文から続いた世界に誇る日本古来の技術を継承している、日本生まれ日本育ちの、生粋のやきもの産地である。中世から今も連綿とやきものづくりが続くまちは、丘陵地に残る大小様々の窯跡や工房へ続く細い坂道が迷路のように入り組んでいる。恋しい人を探すように煙突の煙を目印に陶片や窯道具を利用した塀沿いに進めば、「わび・さび」の世界へと自然と誘い込まれ、時空を超えてセピア調の日本の原風景に出会うことができる。</p>